

政治・経済定点観測レポート

## ウズベキスタン NOW

【第 39 号:2015 年 11 月－12 月期】

- \* 本レポートは ROTOBO の協力者である現地専門家の執筆によるものです。内容は執筆者の個人的見解であり、ROTOBO の組織的見解とはいかなる意味でも関係ありません。内容の無断転載、引用は堅くお断りします。

### 経済概況

#### 世界銀行が2016年のウズベキスタンのGDP成長率を7.5%と予測

ウズベキスタン政府の予測では、経済成長率は世銀の予測より若干高い7.8%程度となっている。世銀は2017年と2018年のウズベキスタンの経済成長率を各7.7%と予測している。この予測は、2016年1月6日に世銀が発行した報告書『世界経済見通し(Global Economic Prospects)』に記載されているものだ。前回の予測(2015年6月)と比較すると、2016年と2017年のGDP成長率はそれぞれ0.3%下方修正されている。前回は、2016年の成長率は7.8%、2017年は8%になるとの予測が示されていた。世銀の専門家らは、成長率が下方修正された原因は主にロシアの景気後退であると指摘している。

### 投資・金融セクター

#### 2015年10月末、アサカ銀行と国際協力銀行(JBIC)が415億4,400万円の融資契約を締結

融資契約は、安倍晋三首相のウズベキスタン訪問中の10月25日に締結された。この融資は、株式会社ナヴォイアゾットのアンモニア・尿素製造プラント建設のために供与される。三菱重工業株式会社と三菱商事株式会社が同プラントの建設を受注した。三菱東京UFJ銀行、みずほ銀行、三井住友銀行ならびにING Bank N.V. 東京支店が、このプロジェクトの協調融資に参加している。日本貿易保険(NEXI)は、協調融資に参加する民間銀行に対して保険を付保する。アンモニアについてはHaldor Topsøe(デンマーク)、尿素の合成と造粒についてはSaipem(イタリア)やUdde Fertilizer Technology(オランダ)といった世界のトップ企業の技術を導入し、年間66万tのアンモニアと57万7,500tの尿素を製造するプラントが建設される計画である。総工費は10億ドル以上である。このプロジェクトには、ウズベキスタン復興開発基金の融資3億2,000万ドルおよびナヴォイアゾットの自己資金1億2,000万ドルも投入される予定である。

**中国輸出入銀行は、ナヴォイアゾットのポリ塩化ビニル製造プラントの新規建設および設備購入のため、ウズベキスタンに3億7,400万ドルの融資を供与**

中国輸出入銀行とアサカ銀行の間で融資契約が締結された。このプロジェクトは2015年12月に開始される予定である。

**ウズベキスタンにおける改革プログラム実施の一環として、今後5年間で総額600億ドル以上、900件以上の投資プロジェクトの実施が検討中**

上記の計画は、カリモフ大統領が承認した「2015～2019年のさらなる経済改革・構造改革・多様化プログラム」に記載されている。ハイテク生産施設の新規建設ならびに石油化学、化学、電力、機械製造、自動車、電気工業、繊維、製薬およびその他の分野の既存企業の抜本的な近代化が計画されている。また、このプログラムには、通信インフラおよび道路・交通インフラ設備の建設・改修プロジェクト300件以上が含まれている。

**国家幹線自動車道の一部区間建設のため、アジア開発銀行（ADB）がウズベキスタンに1億5,000万ドルの融資を供与**

ウズベキスタン政府も、このプロジェクトの実施に8,000万ドルを拠出する。ADBによると、これらの資金はA-380自動車道（グザル～ブハラ～ヌクス～ベイナウ）の228～315km区間（87km）の改修に充てられる。これは、ADBによる国家幹線自動車道建設のための総額5億ドルのマルチランシェ融資プログラムの枠組みにおける第3ランシェである。ADBは、2011年9月にマルチランシェ融資プログラムを承認した。

**ウズベキスタンでは2016年7月1日から新制度が導入され、株式会社の定款資本の15%以上の株式を外国投資家が保有することに**

2015年12月21日付大統領令「株式会社への外国投資誘致にかかる追加的措置について」によると、政府は、2016年4月1日までに、共和国法「株式会社および株主の権利保護について」およびその他の関連法令の必要な修正・追加案を提示するとともに、これらに基づき作成された株式会社のモデル定款を承認しなければならない。

新制度は、製造業および戦略的資源の一次加工業の分野で事業を行う株式会社、自然独占企業、ならびに価格規制の対象である社会的に重要な商品やサービスを提供する企業には適用されない。2016年7月1日までに株式の15%を外国投資家に売却するという要件を満たすことができない会社は、別の組織的・法的形態に改編される計画である。

なお、外国投資家が参加する企業に対しては、新たな税制優遇措置が適用される。たとえば、外資比率が15～33%である企業は、利潤税、資産税、社会インフラ整備・

開発税、統一税、共和国道路基金への強制積立金の支払いにかかる特典を受けることができる。また、2020年1月1日まで、外国投資家は株式の配当所得にかかる課税を免除される。

## エネルギーセクター

### 「2021年までの水力発電発展プログラム」が採択され、9基の水力発電所が新規建設されるとともに、既存の15基が近代化される予定

同プログラムの事業費は総額約8億8,941万ドルである。株式会社ウズベクエネルギーの下では新たな水力発電所が4基建設され、設計上の出力が合計23.5 MW、年間平均発電量が1億1,690万kWhとなる計画である。また、同社の11基の既存水力発電所が近代化され、設計上の出力は合計919.99MW、年間発電量は34億5,600万kWhに拡大する見込みである。

農業水利省の下でも、5基の小規模水力発電所が建設され、設計上の出力が合計70.9MW、年間平均発電量が2億7,380万kWhとなる計画である。また、3基の既存水力発電所の近代化が行われ、設計上の出力は合計465MW、年間発電量は14億600万kWhに拡大する見込みである。トゥポラング貯水池の貯水量を3億8,000万m<sup>3</sup>に拡大する計画もある。

### 2015年、合弁企業Uzbekistan GTLは、合成燃料製造（GTL）プラント建設資金調達のための融資を得られず

資金調達が滞った理由として、2014～2015年の「困難な油価の状況」が、こうしたプロジェクトへの投資家や金融機関の参加意欲にマイナスの影響を与えたことが指摘されている。

したがって、プロジェクトの実施スケジュールは変更される見込みである。当初、同社は製造設備部分の建設を2014年末に開始する計画であったが、これを2015年第4四半期に延期していた。

当初、このプロジェクトは2017年8月に完了する計画であった。総額56億ドルの事業費は、合弁企業Uzbekistan GTLの創設者の自己資金およびプロジェクト・ファイナンスによる銀行コンソーシアムの融資（総額の70%）によって調達することが想定されていた。同社の創設者は、国営企業ウズベクネフチェガス、Sasol、Petronasである。現在、同社はこのプロジェクトの新たな参加者を積極的に探している。

GTLプラントでは、年間35億m<sup>3</sup>のガスからディーゼル燃料86万4,000 t、ジェット燃料30万4,000 t、ナフサ39万5,000 t、液化ガス1万1,200 tを製造する計画となっている。

## **2015年12月29日、株式会社ウズベクエネルギーが、ナマンガン州のトゥラクガン火力発電所の建設にかかる入札を行うことを発表**

このプロジェクトの事業費は11億ドルである。ウズベクエネルギーは各出力450MWのコンバインドサイクル発電機2基の建設請負業者を募集しており、申請書類の受付期限は2016年3月30日である。このプロジェクトを実施するため、日本が7億400万ドルの借款を供与した。発電機2基は2017年に完工する見込みである。ウズベキスタンは、2020年までに同地においてさらに2基の建設を計画している。

## **2016年、ガスプロムはウズベキスタンからのガスの購入量を増やす意向**

ロシアのメディアの報道によると、ガスプロムのアレクセイ・ミレル社長が上記について発表した。購入量は、2015年のトルクメニスタンからの購入量である31億 $m^3$ を上回る見込みである。これに先立ち、トルクメンガスは、ガスプロム・エクスポートが同社に対して2016年1月1日以降トルクメン産ガスの購入を停止すると通知したと発表していた。ガスプロムとトルクメンガスは、トルクメン産ガスの価格を巡って長年争ってきた。2014年のガスプロム・グループの中央アジア産ガスの購入量は295億2,000万 $m^3$ で、そのうちトルクメンからの購入量は109億8,000万 $m^3$ 、ウズベキスタンからは73億8,000万 $m^3$ 、カザフスタンからは109億5,000万 $m^3$ であった。

### **自動車工業・輸送セクター**

## **2015年11月、フランスのAlstomとウズベキスタン・テミル・ヨラリ（ウズベキスタン鉄道）がウズベキスタンにおける誘導主電動機工場建設に関するMOUを締結**

このMOUは、タシケントで開催された国際投資フォーラムにおいて締結された。この工場では、電気機関車、ディーゼル機関車、郊外列車、ディーゼル列車などを含む様々な鉄道車両向けの電動機を製造する計画である。Alstomの担当者によると、同社はウズベキスタンの機械製造部門に自社の技術を移転する用意があり、ウズベキスタンとの長期的パートナー関係発展の最初の一歩としてこのプロジェクトを検討しているということだ。具体的には、電動機にはCIS諸国市場においてまだ導入されていない技術が利用される予定である。その結果、サービスのコストを削減し、製造サイクルを簡素化し、鉄道車両のエネルギー効率を高めることが可能になる。

## **ウズベキスタンがMANの販売市場上位10カ国にランクイン**

2015年、MANはウズベキスタンにおいて通算5,000台目となるトラックを生産し、工場の年間生産能力は大型トラック3,000台に達した。MAN Truck & Busでは、ウズベキスタンを中央アジア諸国市場への自社製品販売のための輸出拠点とすることを計画し

ている。現在、ウズベキスタンはすでにMAN製品をタジキスタンおよびキルギス市場に輸出するための「エントリーポイント」であり、2015年9月にはカザフスタン向けの輸出も開始された。現在、MANとウズアフトサノアトは、新たな輸出戦略に取り組んでいる。

短期的将来における主なプロジェクトは、2種類のバスの生産とトラック部品の現地化作業の開始である。今後2年間で、プレス部品、金属部品、プラスチック部品、その他の部品およびトラックの運転台を現地生産できるようにする計画である。2020年末までには、運転台の内装・外装部品、プロペラシャフト、ラジエーター、燃料タンク、スチールホイールおよびその他の部品の現地生産が開始される見込みだ。合弁企業MAN Auto - Uzbekistanは2009年8月に設立され、ウズアフトサノアトが株式の51%を、MAN Nutzfahrzeuge AGが49%を保有している。

### **2015年1～11月のロシアにおけるウズベキスタン製自動車の販売台数は前年同期比47%減**

上記は欧州ビジネス協会が発表したデータである。この11カ月間のロシアにおけるGM Uzbekistan車の販売台数は1万8,753台、2014年同期の販売台数は3万5,355台であった。2015年11月の販売台数は前年同月比13.2%減の1,634台であった（2014年11月の販売台数は1,883台）。2015年初以降、ロシア市場におけるGM Uzbekistanのシェアは1.6%から1.3%に低下している。

### **その他のセクター**

#### **ウズキミョサノアト（ウズヒムプロム）とスイスのCasale SAが協定を締結**

両社は、タシケント州のナヴォイアゾットおよびマクサム・チルチクの化学工場における製造設備の近代化プロジェクト実施に関する協定を締結した。Casale SAはウズベキスタンの化学工場近代化プロジェクトに参加する計画で、事業費は総額約8億3,000万ドルである。この協定に基づき、同社は2016年春までに株式会社ナヴォイアゾットと株式会社マクサム・チルチクの工場近代化に関する技術的プロポーザルを提出する。株式会社ウズキミョサノアトは、2015～2021年にハイテク生産施設の建設を目指す10件の新規プロジェクトを実施する予定で、その事業費は総額25億4,000万ドルである。現在、同社傘下の各化学企業が総額11億ドルのプロジェクトを実施している。

#### **ウズベキスタンはウランと金の増産を計画**

2015年、合弁企業の設立を目的として540の様々な鉱床へのアクセス権が開放された。ウズベキスタンがアクセス権を開放した540の鉱床には、宝石、鉱物、鉱石、化学原料の鉱床も含まれる。投資家は、資源を採掘するだけでなく、原料を加工して製品を生

産するための工場を鉱床近辺に建設し、製造業を行うことができる。すでに、サウバイ鉱床ではShindong Resources（韓国）との合弁でタングステンを生産する企業が設立されており、2016年に採掘・加工施設の建設が開始される。政府が49%、Shindong Resourcesが51%の株式を保有する。同鉱床におけるタングステンの埋蔵量は1万7,000 tと推定されている。

### **Dal Teknik Makinaがウズベキスタンに新たなセメント工場を建設**

トルコのDal Teknik Makinaとアルマルイク採鉱精錬コンビナートは、スルハンダリヤ州におけるセメント工場建設に関する覚書を締結した。このプロジェクトは2018年7月に完了する計画で、年間150万 tのセメントを生産する能力を持つ製造ラインの建設が想定されている。総工費は2億5,000万ドルで、アルマルイク採鉱精錬コンビナートの自己資金およびウズベキスタン復興開発基金と民間銀行の融資により資金を調達する予定である。

2014年3月、Dal Teknik Makinaは、ジザク州においてアルマルイク採鉱精錬コンビナートのセメント工場の建設を完了し、その総工費は1億1,420万ドルであった。年間生産能力は、ポルトランドセメント76万 t、白色セメント35万 tである。現在、ウズベキスタン国内では8カ所のセメント工場が稼働しており、年間生産能力は合計864万 tである。2014年のセメント生産量は746万 t、2015年1～10月の生産量は662万 tであった。

### **アングレン産業特区で総額20億ドルのプロジェクトが実施予定**

アングレン産業特区の事務局が公表した有望プロジェクト・リストは、ガス化学、食品工業、建材製造、石炭、電気工業といった分野の52件のプロジェクトから成る。最大規模のものは、炭化水素資源の高度加工施設におけるポリマー（ポリカーボネート、ポリスチレン、ABS樹脂など）製造プロジェクトで、事業費は7億ドルである。この工場のポリマー生産能力は年間7万 tである。その他には、年間生産能力1万 tのポリシリコン工場建設プロジェクトがあり、事業費は4億ドルである。

また、2018年には株式会社ウズキミョサノアトと中国のPoly Technologies Incが同特区においてタイヤ工場の建設を完了する予定である。総工費は1億8,400万ドルである。この工場の年間生産能力は、自動車タイヤ300万個、農機タイヤ20万個、コンベヤベルト10万mとなる見込みである。

アングレン産業特区設立のコンセプトおよび優先分野に基づき、同特区には、電気工業、機械製造、化学、石油化学、製薬、食品工業、果実や野菜の高度加工、現代的な建材の製造、皮革加工といった分野の企業が入居している。

### **ドイツのDobersek Engineering GmbHがアルマリク採鉱精錬コンビナートの工場近代化を開始**

このプロジェクトの事業費9,200万ドルは、ウズベキスタン復興開発基金の融資2,900万ドル、ウズベキスタンの各銀行による融資3,400万ドルおよびアルマリク採鉱精錬コンビナートの自己資金によって調達されている。すでに設備の納入が開始されており、2016年春には試運転・調整作業が開始され、秋にはプロジェクトが完了する予定である。アルマリク採鉱精錬コンビナートは、ウズベキスタン国内唯一の銅生産企業である。また、同社は、国内の銅生産の90%および金生産の20%のシェアを占めている。

### **米国のGibbs Investment Holdingsがソーダ灰工場建設プロジェクトに参加する意向**

株式会社ウズキミョサノアトによると、このプロジェクトの共同実施可能性調査に関する覚書がすでに締結されている。2016年第1四半期末までにGibbs Investment Holdingsが詳細なプロポーザルを提出した後、今後の予定が決定される計画となっている。事業費は700万ドルと推定されている。現在、ウズベキスタンでは、中央アジア唯一のソーダ灰工場であるクングラド・ソーダ工場が稼働しており、生産能力は年間10万tである。主な輸出先は、トルコ、ロシア、カザフスタン、トルクメニスタンおよびその他のCIS諸国である。